

# 夢の卵★ 育成事業

この事業は、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊さんの「子どもたちには『夢の卵』を持ち続けてほしい」とのメッセージにちなんで企画されました。子どもたちに「いくつもの『夢の卵』をもってもらおうこと」、「『夢の卵』を温めてもらうこと」、そして「『夢の卵』を孵すこと」を支援し、自分の将来を考えてもらうきっかけづくりをねらいとして、平成16年度から実施しており、今年で15回目となりました。

4月中旬から5月にかけて、県内の小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に、「将来の夢（＝夢の卵）」を書いた作文を募集し、その中から選ばれた4名の児童生徒が、各分野の第一人者に短期入門をしました。また、より多くの子どもたちの夢を応援するため、次点となった作品を佳作として表彰しています。

## 小学生の部（応募数1,325作品）

### 将来の日本の宇宙開発に貢献できる技術者になりたい

富山市立山室中部小学校6年 清水 詩音 さん

この半世紀における日本の宇宙開発技術の進歩の早さに、驚きと憧れを抱き、将来は自分も日本の宇宙開発に関わり貢献したいという強い意欲を持って、富山県立大学工学部電子・情報工学科に入門しました。



モデルロケットを製作しました。



打上げに成功!!



体験記より

宇宙開発に携わる方々は、失敗の許されない厳しく緊張感のある現場におられると教えていただきました。今回のモデルロケット打ち上げも同じで、地道な作業の連続ですが、それだけに成功したときの喜びは格別なものでした。今回の入門で、将来は宇宙工学について学び、日本の宇宙開発に貢献したいという気持ちが、これまで以上に大きくなりました。

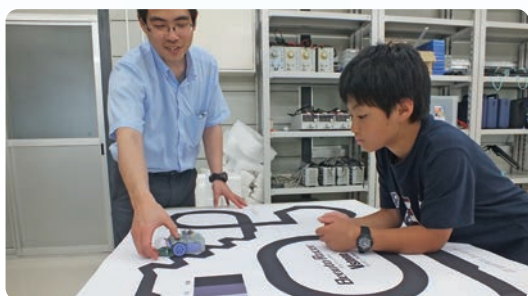
### 人の役に立つロボットを作る人になりたい

富山市立速星小学校5年 高瀬 心海 さん

普段の生活の中から、介護、家事、災害に注目し、その現場で役に立つロボットを作り、人々の暮らしを良くしたいという優しさと強い気持ちを持って、富山県立大学工学部知能ロボット工学科に入門しました。



先生が研究された義手を見せてもらいました。



製作したライトレースロボットを走らせてみました。



体験記より

今回の入門で、ロボットについてたくさんの知識を得ることができました。ひとつのロボットを作るためにも、様々な行程があり、とても複雑で難しいと感じることがたくさんあります。ですが、それがロボットづくりの魅力ではないかと思いました。